

みんなで見る夢は —ジョン・レノンのイマジン—

(株)日本設備工業新聞社
代表取締役社長 高倉克也

マンハッタンのダコタ・ハウスでローリング・ストーン誌の写真撮影に臨んだ。入居して7年目になる。ニューヨークの寒い冬の日、まだ午前中だ。髪を短くカットし、眼鏡を外してデビュー前のような若々しい姿で撮れたはずだ。

ビートルズのリーダー、ギター、ヴォーカルとして一世を風靡したジョン・レノン（1940—1980）はソロになってイギリスからアメリカに移り住む。妻のオノ・ヨーコと音楽活動や反戦運動に情熱を注ぎ、スーパースターとして脚光を浴びていた。

その日も夕方からヨーコと共にレコーディングスタジオに出かけて新曲の作業を行い、ラジオ番組のインタビューを受け、リムジンで帰宅する。ふたりがダコタ・ハウスの玄関前で降りたとき、見知らぬ男の拳銃が暗闇のなかで火を吹いた。

労働者階級出身の4人組

ジョンはイギリスの港湾都市リヴァプールで生まれた。出生時、父アルフレッドは商船の乗組員として航海中、母のジュリアも他の男性と同棲していた。ジョンはジュリアの姉でミミ伯母と慕ったメアリーの中流家庭で育てられる。帰国した父はジュリアと争って行方しれずとなった。

12歳で公立の中高一貫進学校であるグラマー・スクールのクォリー・バンク校に入学する。16歳のときエルヴィス・プレスリーの「ハートブレイク・ホテル」を聴き、アメリカのロックンロールに夢中になる。通信販売でギターを購入し、級

友たちとクォリーメンを結成した。

新たに友人からポール・マッカートニーを紹介され、メンバーに加える。さらにポールの友人のジョージ・ハリスンをリードギターに抜擢した。

18歳のとき交通事故で母ジュリアが他界する。ジュリアの死は14歳で母親を亡くしたポールとの友情を深めるきっかけになった。

クォリー・バンク卒業後、美術学校のリヴァプール・カレッジ・オブ・アートに通いながらバンド活動に精を出す。やがて西ドイツのハンブルクのクラブでも演奏するようになり、本格的にプロをめざすことにした。レコード店を経営するブライアン・エプスタインとマネジメント契約を結び、ロンドンのレコード会社へ売り込みを開始する。旧知のドラマーのリンゴ・スターも加入し、労働者階級出身の4人組は1962年、ビートルズとして念願のレコード・デビューを果たす。

私生活におけるジョンは美術学校で交際していたシンシア・パウエルと結婚し、ジュリアンをもうけた。だが父親と暮らしたことがないジョンは息子とどう接したらいいか皆目わからなかった。



ジョン・レノン

のちにポールは「どうしたらジュリアンが喜ぶか教えてくれないか？」と質問されたと話している。ジュリアンもジョンのことを聴かれて「ポールはかなり遊んでくれたよ、父さんよりね」と答えた。

愛は花のように育てるもの

レノン＝マッカートニーによる絶妙な共作はビートルズの成功の原動力となった。ヒット曲を連発して一気にスターダムへ駆け上がり、1965年に大英帝国勲章を受章する。

翌年、ジョンは新聞社の取材で「ビートルズはイエスより人気がある。イエスの弟子たちはバカで凡人だった」と発言し、物議を醸す。アメリカのファンマガジンに転載されると南部や中西部の宗教団体が激しく反発し、ビートルズのレコードが燃やされ、ラジオ局は放送を禁止した。ジョンはシカゴで記者会見を行い「ビートルズは若者や状況に大きな影響を与えている。そう言ったことが間違っって解釈された」と釈明した。

世界的なライブ・ツアーを休止した頃、ジョンはロンドンのギャラリーでオノ・ヨーコ＝小野洋子と出会う。裕福な銀行家の一族で生まれ育ったヨーコは父の海外勤務に伴い流暢に英語を喋った。ジョンは東洋の禅や空の概念を投影したヨーコの現代アートに興味を持つ。彼女の個展を訪れると白い部屋に脚立が置いてあり、天井から虫眼鏡がぶら下がっている。天井には裸眼で見えないほど小さな文字が書いてあり、脚立を昇って虫眼鏡で見るとYESだった。ジョンはYESという寛容な言葉がとても気に入った。

ヨーコに魅せられたジョンはシンシアと離婚し、1969年にヨーコと再婚する。新婚旅行で訪れたパリで「ジョンとヨーコのバラード」をつくり、アムステルダムとモンリオールでベッド・インという世界平和を訴えるパフォーマンスを行った。「愛とは育てなくてはいけない花のようなもの」と語っていたジョンは平和も育てるものと考えていた。プラスチック・オノ・バンドを結成してシングル「平和を我等に」などをリリースする。

破天荒なカップルはメディアから格好の餌食にされる一方、反体制的な要注意人物と見做されるようになった。過激な新左翼グループと接触し

ていたことからFBIの監視対象となる。ベトナム戦争が激化するとイギリス政府のアメリカ支持に抗議して大英帝国勲章を返上した。

生涯2回の素晴らしい選択

突出した単独行動はビートルズの他のメンバーを戸惑わせた。とりわけポールと深い溝が生じ、1970年に解散する。ソロ活動に移行したジョンは約半年後『ジョンの魂』を制作し、オープニングナンバーの「マザー」をシングルカットした。

翌年、ニューアルバム『イマジン』の制作を開始し、活動の拠点をニューヨークに移す。「僕らの社会は、ばかげた目的のために、あきれた人々に動かされている」と全米各地の反戦集会に駆けつけた。ジョージも参加した『イマジン』はアメリカ、イギリス、日本で1位と大ヒットを記録する。タイトル曲の「イマジン」では天国も地獄も国境も武器も飢餓もない世界を「想像してごらん」「僕は夢想家かもしれないけど ひとりぼっちじゃない いつか君たちと仲間になって世界はひとつになる」と語りかけるように歌っている。ジョンは「ひとりで見る夢はただの夢、みんなで見る夢は現実になる」と本気で願っていた。

息子のショーンが生まれると1976年から5年間にわたって子育てに専念にする。1980年に音楽活動を再開し、ヨーコとの共作アルバム『ダブル・ファンタジー』をリリースすると全世界で500万枚を超える空前の大ヒットとなった。

クリスマスが迫った12月8日の22時50分、ジョンはファンを名乗る男に銃撃され、パトカーで病院に搬送された。しかし約30分後に失血性ショックで死亡する。まだ40歳だった。

銃撃される直前、ジョンはラジオ局による生涯最後のインタビューを受けていた。そこでジョンは「人生のうちで2回、素晴らしい選択をした。ポールとヨーコだ。それはとても良い選択だった」と楽しそうに話している。

ビートルズの解散時、ジョンとポールの確執が大々的に報道された。しかしジョンは「ポールの悪口を言っているのは俺だけだ。ほかの奴が言うのは許さない」と家族や友人たちでさえポールの悪口を言うことを許さなかった。